

障がい者支援に携わる市民活動 共生社会の実現に向けて

私たちの社会には、さまざまな人が一緒に暮らしています。それぞれ違いはありますが、障がいのある人もない人も誰もが同じように暮らす権利を持っています。しかし、障がいのある人が社会参加するにはさまざまな障壁があります。

今年4月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）では、障がいを理由とした差別を禁止し、障がい者への社会的障壁を取り除くための「配慮」が求められています。

今回は、すべての人が障がいの有無にかかわらず、互いに人格や個性を尊重しながら共生する社会の実現に向け、さまざまな分野で障がい者への支援に携わる市民活動を紹介します。





松戸キャラバン隊たねっこ



子どもたちが暮らしやすい環境をつくるために



たねっこキャラクター・まつどたねぎちくん



知的障がいのこと、もっと理解してほしい

2011年に知的障がいのある子どもたちのお母さん8人で結成した「松戸キャラバン隊たねっこ」。子どもたちが障がいを抱えながら生きることの不自由さや大変さ、がんばりを、寸劇や疑似体験を通して一人でも多くの人に理解してもらい、子どもたちが暮らしやすい環境をつくるため、啓発活動に

り組んでいます。「何かしてほしいのではなく、理解してほしい」と話すたねっこの皆さん。公演では「これって虐待？」や「女性専用車両って誰が乗れるの?」「選挙に行こう」など、障がい者が日々の生活で感じる「障壁」をテーマにした寸劇のほか、軍手をはめて折り紙で鶴を折る「手先が不器用の体験」や、ペットボトルを使った「見え方の違い」

とばが不自由な体験」など、参加者に疑似体験してもらっています。寸劇のテーマや脚本はすべてメンバー同士で意見を出し合い制作。テーマによってはその分野の専門家の意見を聞くことも。寸劇の中には必ず解決策を明示しています。

「知的障がいのある子どものいる私たちが伝えるから説得力がある。寸劇を見たり、疑似体験してもらったりすることは座学よりも印象に残り理解が深まるんです」と、たねっこの皆さんは話してくれました。

小学校の道徳の時間に寸劇や疑似体験をしたい

これまで保育園や幼稚園、中学、大学、福祉施設などで公演を行って



どんなふうに見えるかを体験

きましたが、まだまだ知的障がい者に対する世の中の障壁は取り除くことはできていないと感じています。「今後は小学校の道徳の時間に寸劇や疑似体験を行い、早い時期から障がいに対する理解を図っていききたい」と話すたねっこの皆さん。将来は、テレビのチャリティー番組にもたねっこの活動を取り上げてほしいという希望をもって、これからも障がい者と健常者が共生する社会を目指して、啓発活動に取り組んでいきます。



「ことばが不自由な体験」の1コマ



NPO車椅子レクダンス普及会松戸支部



みんなが一緒に楽しめる活動を



取材時に参加されていた皆さん



リズムに乗って手を合わせます

一緒に踊ろう！楽しもう！

流れる曲に合わせて、車椅子に乗った人と立った人が、手に手を取り合って一緒に動きます。時にすばやく、時に滑らかなその動きは、「車椅子レクダンス」。車椅子に乗った人も、そうでない人も、同じ曲で一緒に踊ります。

松戸に車椅子レクダンス普及会の支部ができてから16年が経ちました。長く普及に努めてきた前会長の斉藤広恵さんは「ふれあいやスキンシップが、互いにとってのいい刺激になります」と語ります。「ダンスが趣味だった人、医師や看護師、会社員などいろんな人が参加しています。車椅子が必要な人、目が見

えない人、体の一部が不自由な人、そして健常者が一緒に楽しめるダンスなんですよ」。お互いが相手に合わせながら動くことで、その2人にしか出せない楽しさ、美しさを表現します。

この日、参加していたのは約30人。車椅子で参加している男性は、「毎月参加しています。他の人と話したり、一緒に動く機会としてとても大切です」。また、高齢の男性も「毎月楽しみにしています。雰囲気良くてね」と満面の笑み。もともとダンスが趣味という女性も「自分の趣味が役に立つのならば」と大活躍。そして、ボランティア体験で参加した中学生・和井内蘭さんは、「初

めの体験だったけど、一緒に活動できる機会を持ててとても良かった」とそれぞれにこの時間を楽しく過ごしたようです。

互いの心がつながるように

「障がいのある人と社会の関係は、『支える人と支えられる人』といった一方的なものではありません。一緒に活動し、互いが互いに合わせて考えること、楽しめることをこれからも続けていきたい」と斉藤さん。音楽に合わせリズムカルに動く輪と楽しい笑い声。参加者全員の心がつながるダンスが続いていました。



曲が始まるとみんな笑顔に



生活介護ボランティア

作業を通じた社会参加で お互いの可能性を引き出す

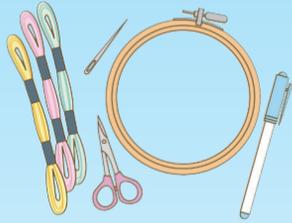


刺し子が得意

能力を生かして魅力的な製品作り

夏休みを利用してボランティア活動をしている、高校1年生の後藤美紅さんは、「思っていたよりずっと明るい雰囲気でした」とその第一印象を語ります。利用者の作業を見守りながら、「うまくいってますね」「この糸はこちらに」と声をかけてしっかりとサポートしています。

生活介護(日常生活のサポート)を行っているわかば園では、60人ほどの利用者がそれぞれの能力を生かしながら、縫製、陶芸、木工や近隣の会社から請け負った作業などを行っています。作業中のま



なごしは真剣で、集中しているようすが伝わってきます。作業内容は利用者ごとに異なります。「利用者の方のすてきな長所を伸ばしたり、『こういう自分になりたい』と一緒に目標を立てて、一人ひとりに合わせた支援を行っています。今まで気づかなかったすてきな部分を見せてくれて、驚くこともありますよ」と職員の渡邊友里恵



1つ1ついいに



利用者の皆さんと渡邊さん(左から2番目)、後藤さん(右から2番目)

さんが教えてくれました。

コミュニケーションで お互いを知って

地域の人に知ってもらえるように、わかば園でお祭りを開いたり、夏休み等には学生ボランティアを受け入れたりして、交流やコミュニケーションの場を大切にしています。

後藤さんも「皆さんがとても生き生きしている姿を見て、私も明るい気持ちになりました。社会とかかわることの大切さが分かりました」と、利用者や渡邊さんとのコミュニケーション

で大いに刺激を受けたようです。「福祉関係の仕事に進むことも考えているので、このボランティア経験をこれからは生かせそうです」と夢を語ってくれました。



こまやかな細工がきれいに施されています



松戸市手話サークル「ゆうかりの会」

手話を通じて みんなと つながりたい



実体験から共通理解を深める

今年で発足44年目を迎える松戸市手話サークル「ゆうかりの会」。健聴者と聴覚障がい者の交流を目的に、手話学習やレクリエーション、時には社会見学を行い、さまざまな活動をしています。

聴覚障がい者が会員の前に立って、手話で実際の体験を語る学習会では「銀行に番号表がまだない時代に、自分が呼ばれたことが分からず、最後の一人になるまで待ってしまった」という不便を感じた体験や「聴覚障がい者同士で電話をする場合、それぞれに手話通訳が必要だったが、FAXやEメールの普及により、コミュニケーショ



講師を招いての勉強会

中指と薬指を曲げ、他の指を立てると「I love you」

ンが格段にとりやすくなった」という体験が紹介されました。健聴者では気づきにくい視点からの事例紹介を受けて、参加者からは「そういう見方もあるのか」と新たな発見に驚く声があがりました。

手話を少しでも多くの人に 知ってもらいたい

「手話に興味を持ち手話を学ぼうとサークルに入会した方が、実際に当事者と接しているうちに、本格的に手話を学んで手話通訳者を目指そうとすることも少なくありません」と同サークル会長の岡野道子さん。また、「挨拶だけでも手話ができれば、聴覚障がい者の方は少して



も自分のことを理解してもらえると、とても安心した気持ちになります。より多くの人が手話を覚えて、健聴者と聴覚障がい者が心からつながる社会を目指していきたい」と話してくれました。



「手話を楽しみながら学べます」と岡野会長



会場は笑いが絶えません

松戸朗読奉仕会

視覚障がいの方に
活字を
届けたい



皆さんに“声”をお届けします



読み合わせは十分に

聞くことで広がる世界

元市長の松本清氏からの依頼で発足した松戸朗読奉仕会。今年で44年目を迎えます。視覚障がい者を対象に、広報まつどの朗読を録音したCDを郵送したり、自宅に訪問して希望した本の朗読をする対面朗読を行っています。

広報まつどを例にすると、録音作業は原稿の読み合わせから始まり、全体の雰囲気全員で共有します。その後、各自自宅で録音したり、自主練習後に、再度全員で最終打ち合わせをします。そこで、感じたことや、疑問に思ったところを共有し、疑問点を解消してから本番の録音に挑んでいます。そうして録音された「声の広報まつど」は、広報まつどの発行日に利用者のもとへ届けられます。「声の広報まつどで、さまざまな情報

を知ることが出来て世界が広がった」と利用者から喜びの声があがっています。

気持ちや雰囲気を伝える技術

「一言一句間違わないように、細心の注意を払って録音をしています」と同会員の近藤蓉子さん。新規で会員になる人は約1年間講義で知識を学んでから、実際の朗読に携わることができます。

また、関心を持って朗読を聴いてもらえるように声の抑揚を変えたり、単純に「〇〇さんの写真」と読まず、「舞台上で賞状を手に持ち、笑顔の〇〇さん」といったように写真や図を細部まで説明しています。そういったさまざまな手法をこらし「印刷物を見たままの雰囲気をそのまま伝えたい」という思いをこめて、声を届けています。



録音は気持ちをこめて

松戸朗読奉仕会のサービスをご利用ください！

☎ふれあい22 ☎383-7111

同会では市内在住で障害者手帳（視覚）をお持ちの人を対象に、無料で広報まつど等を音声化したCDを郵送しています。また、対面朗読やイベントも開催しています。

貸し出しをしている録音物

広報まつど・議会だより・社協だより・新聞コラム・一般図書他

依頼・希望図書

希望の本・取扱説明書等を音声化して、CDを作成します

対面朗読

所定の場所へ出向き、本や新聞を朗読します

ふれあい教室「朗読をきくかい」

開催日毎月第2水曜日10時から
会場ふれあい22

松戸市内の福祉ショップ 作品展示即売会

障がい者に対する理解と認識を一層高め、障がい者の自立促進と社会参加への意欲を育てるため、おもに松戸市内の福祉施設で手作りしたパンやお菓子、布製品、日用雑貨などの展示即売会を定期的に行っています。市役所へお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

日時9月①15日(木) ②16日(金)各9時30分～15時

会場市役所1階本館新館連絡通路

出展施設①豆のちから、ビオラ工房、松里福祉作業所

②まつど育成会

※出展日時・会場・施設は変更・中止となる場合があります。

※10月以降の実施等詳細については、決まり次第市ホームページに掲載します。

☎障害福祉課 ☎366-7348



こころを込めて作った作品を展示・販売しています

11月には、市内の福祉施設が一堂に会して販売・イベントを行う『ふれあいフェスティバル』も開催予定です。

広告

広告スペース